

# 令和4年度 第1回健康福祉審議会健康分科会 議事録

日 時：令和4年6月30日（木）13：30～15：00

場 所：加賀市役所別館 302・303会議室

出席委員：新澤委員、光谷委員、田端委員、川向委員、中田委員、北井委員、松本委員、  
木戸口委員、角地委員、岡崎委員、藪下委員、家元委員、谷本委員、後出委員、  
山根委員

欠席委員：橋本委員

次第

1. 開 会

2. あいさつ 奥村市民健康部長

3. 委員の紹介

新委員は3名で、前任者の残任期間の2年となる。

- ・加賀市医療センター 病院長 北井隆平氏
- ・石川県南加賀保健福祉センター 企画調整課長 松本美紀氏
- ・加賀市区長会連合会 理事 岡崎晃一朗氏

市の所掌事務の見直しに伴い、母子保健に関する事務等が健康課から子育て支援課に統合したことにより、健康福祉審議会健康分科会で構成する委員2名がこども分科会に移行となり、計16名の委員となる。継続委員については資料のとおり。

4. 議 題

審議会条例の規定により、本来は会長が会議の議長を務めるが、小橋会長の退職により、議事進行を副会長の川向委員にお願いしたい。

(1) 会長の選任について

前任の小橋会長の退職により、会長の選任が必要である。審議会規定では、会長の選任は、委員の互選によるものとなっている。

角地委員：医療センター病院長の小橋会長が退職されたということで、新しく病院長になられた北井委員にお願いしてはどうか。

各 委 員：承認

(2) 令和3年度の実績報告及び令和4年度の取り組みについて

①健康増進事業について 資料1参照

質疑応答

新澤委員：きめこまやかな支援をしていると感じた。タニタなど企業と連携しながら様々な人が参加できる体制をとっているのが良いと思った。

様々な取り組みをしているが、メタボリックシンドロームがなかなか減らない。石川県自体が他県と比べて率が高いが、加賀市は石川県より高い。保健指導を受けた方のデータを出して、受けていない人と受けている人の差が見られれば、保健指導のPRができると思った。

歯周病について、成長期、高齢者は検診の機会は得られやすいが、中間層においては、感心は高まっていると思うが検診受診率は低い。加賀市の歯周病検診は、歯科医院へ行くのか、健診の後に受けられるのか。

事務局：保健指導のデータ改善について示して、保健指導を受けてもらうよう、住民に伝えていけたらと思う。

歯科医師会の協力を得て、歯科医院で受診できるようにしている。男性30歳以上、女性20歳以上に個別通知を送っている。

北井会長：他市に比べて受診率は高いのか。

事務局：低い。ただ、特定年齢しか受診できない市町村がある中で、加賀市では、歯科医のご協力をいただき、集団検診は19歳以上、個別は30歳以上の方に無料で受診できる体制をとっている。

光谷委員：加賀市の取り組みは全国的にも珍しい。市長の好意に賛同できた。歯周病検診は、レントゲンは撮らず、一般的な歯周病検診としているが、気を付けるきっかけにはなるのではないかと感じている。

北井会長：予算の執行状況はどうか。

事務局：予算以上に受診された。

北井会長：予算を超えたら、以降の人は受診できないことはないか。

事務局：それはない。希望者は受診できる。

北井会長：メタボリックシンドローム患者が減らないのはなぜか、受診率が上がらないのはなぜか。

新澤委員：特定健診が始まってから20年ほどたつが、なかなかメタボリックシンドロームは減らない。栄養士なので食生活に問題があるのかなと責任を感じている。

北井会長：食生活改善推進協議会としてはどうか。

中田委員：コロナで2年間活動ができなかった。活動ができないと、住民が塩分をたくさん摂ることにつながってしまうなど考えられるので、コロナ感染予防に気を付けながら、塩分摂りすぎの注意やバランス食などを伝える活動をしていきたいと思っている。

北井会長：大人の食育講座も計画されているが、食改も協力しているのか。

中田委員：大人の食育講座は市が行うが、講座終了後に食改になってもらって活動している。講座がないと会員が増えない。

後出委員：500！500！ウォークはいい取り組みだと思う。タニタに代わって今年からの（グッピー）は、アプリで自分が健康管理できてよいことだと思う。ただ、自分はスマホでアプリを取り込もうとしたが取り込めなかった。アプリの使い方など、わかりやすく教えてもらえると、高齢者にとっては良いのではないかなと思う。

こころの健康については、中学校で2回講座を行ったとのことだが、思春期の

こころの揺れやすい時期なので、もう少し、実施数を増やしてやってもらえたらよい。

事務局：あらゆる機会を設けて、アプリを説明する機会を設けていく。ホームページや、7月号広報にも掲載している。持ち歩けば、画面を出さなくても歩数が換算される。食事や体重記録、飲酒の有無、健診の結果を入れるなど、コンテンツが多数あるので、若い方から高齢者まで、楽しんで取り組んでもらえる内容になっている。

北井会長：市の職員が出向いてアプリの取り込みなど支援できないか。

事務局：高齢者の集まりの場に出向くなど説明を行っていきたい。健診会場や、保健推進員の活動の場など、要望に応じて説明に出向きたいと思っている。

北井会長：アプリの取り込みなど、代わりに行うことは違法か。

事務局：手伝うことは問題ない。

山根委員：会員は850人いるが、平均年齢は72歳以上になっている。理事会や委員会などの会議は、スマホで案内する仕組みにはなっているが、100%には遠い状況だ。80歳を過ぎると、アプリを使うのは難しいと感じる。

藪下委員：周りには一人暮らしの人が多く、困っていたり悩んだりする人が増えている。アプリに限らず、手助けできるシステムがあるといいと感じている。

北井会長：アプリの取り込みなど、例えば大聖寺実業高校の生徒に手伝ってもらおうと高齢者も喜ぶかもしれないので、様々なシステムを作れるとよいのでは。検診の受診率が上がらないということだが、土日はどれくらい実施しているか。

事務局：全60会場のうち、土日で22会場行っている。県内でも1番実施していると思われる。ただ、第一生命との協働アンケートからもわかるように、土日開催を求めている割に受診率は少なく、土日開催について知られていないように感じる。

北井会長：対策は。

事務局：まちづくりや保健推進員、地域の関係機関、企業等への周知を増やしていつている。

北井会長：受診者は土日の方が多いか。

事務局：レディース健診などでは、特定健診の他、胃などのがん検診、女性がん検診も全て1日で受けられるものが人気で、それは平日でも土日でも多い。曜日によっては、平日も多い時もある状況だ。

新澤委員：がん検診等同日受診ができる体制は評価できると思う。

岡崎委員：良い健康状態を維持できている人の生活実態を、アンケート方式で調査してもらって、生活習慣の実態を知りたい。運動も食事の管理もすごいことを行っているのか、少しの事の継続なのか。データの解析ができる時代なので、そのような計画は立てているか。

事務局：継続して受診いただいている人へは分析して提示しているが、全体的なものには行っていないので検討していきたい。継続受診している人では、予備群のままずっと数値が悪化していない傾向なので、継続受診を周知していきたいと考えている。

岡崎委員：健康状態がいい人が、どのような生活実態を続けているか、細かいアンケートがとれたら、見えてくるのではないかと感じた。

新澤委員：受診時の問診票のデータ化すると見えてくるのではないか。

事務局：前向きに検討していきたい。

北井会長：マイナンバーと保険証が連動して、健診データも入ってくると聞いている。デジタル田園健康特区として、組織化できるとよい。

## ② 予防接種事業について 資料2 参照

### 質疑応答

北井会長：子どものワクチンこそ、アプリで管理できるとよいのでは。

事務局：母子手帳アプリはしているが、予防接種についてはアプリに載せにくいこともあり現在は計画は特にしていない。予防接種の接種結果は、マイナンバーと国のシステムの連動で加賀市の記録は見られるようになっている。

北井会長：自治体によっては、母子手帳アプリを市として入れているところもある。一人当たりの金額が高いとは聞いているので難しいとは思いますが。

松本委員：R2とR3で接種率の差があるが、何か背景は掴んでいるか。

事務局：コロナによる接種控えではなく、スケジューリングの関係だと聞いている。ただ、接種の際は完全予約制で、1日に予約できる人数を若干減らしているということも聞いているので、影響はあるかもしれない。ただし、その場合にも公的年齢内には接種終了できていると聞いている。

北井会長：子宮頸がんワクチンの接種医療機関はどこか。

事務局：市内医療機関では17か所の医療機関に協力いただいている。

北井会長：かなりの人数の対象者だが、接種体制は万全ということですね。

## ③ 新型コロナウイルス感染症対策について 資料3 参照

### 質疑応答

北井会長：4回目接種は滞りなく進んでいる印象。

事務局：特に大きな混乱なく進んでいる状況。

北井会長：4回目は低調な印象。希望する時に接種できる状況ではないか。

事務局：60歳以上の分母として、6/27現在で、加賀市は3.6%、県は0.7%の接種率となっている。他市と比べて接種スピードは速い状況である。

北井会長：PCR検査は、観光客に対して行う予定はないか。観光客が増えているので。

事務局：当初、住民に対しての感染拡大防止が趣旨だったため、観光客向けは実施していない。ただ、県の事業では、薬局で無料の検査を行っているので、そちらを利用していただくとよいと考える。

## 5. 閉会